



ああ 出雲郷小は よいところ

本日で 1 学期が終了します

早いもので、本日で1学期が終了します。あだかえっ子たちと4ヵ月、共に過ごしましたが立派に成長しています。『こどもは成長する存在である』と言います。そういう成長するこども

たちを見ることのできる教師という職業は幸せだとつくづく私は思います。2学期もどのような成長ぶりが見られるのか楽しみでなりません。本校には四季折々の花が咲いています。同じ花でも「早く開花する」「遅く開花する」花があります。こどもたちも早く成長する、ゆっくり成長する子がいます。私たちはこどもたちの「自立」に向けて取り組んで支援していくことが使命です。今を見ることが大切ではなく、その子の将来を見据え、「自立」するには何が必要か考えていくことが大切だと思う今日この頃です。私たち大人もあせらず、立ち止まって、ゆっくりとこどもたちの成長を見守ることも大切だと思っています。こどもたちの成長がこの四季折々の花のように将来にわたってきれいに咲きほこるようになってほしいと願わんばかりです。

保護者の皆様、地域の皆様、日々のご支援ありがとうございます。これからも出雲郷小学校のこどもたちを支えていただきたいと思います。2学期もよろしくお願いします。

いよいよ夏休みです（終業式で話したこと）

本日終業式で話したことを皆様へお伝えします。まずは、各教室掲示を行った「あだかえ」のふりかえりを行いました。一人ひとりに、1

★「ああ 出雲郷小は よいところ」

あ あいさつができる子
だ ともだちを大せつにする子
か かしこく考える子
え えがおがすてきな子

0点満点中どのくらいできたか考えてもらいました。「10点、9点、8点、7点以下」でそれぞれの項目で手を挙げてもらいました。教育活動において「ふりかえり」というのはとても重要な活動です。足りない得点をどう解決したらいいか？考えて行動する力を身に付けてほしいものです。

次に、いつもの「命」「挑戦」の話をしました。一つ目の「命」についてです。『2学期の始業式は9月1日です。この9

月1日に、全校児童と先生方が出会えることが私にとっての最大の喜びです。「命」を大切に、事故や事件に巻き込まれないように夏休みの生活をしてほしいと話しました。二つ目の「挑戦」についてです。夏休みは毎年やってきますが、その学年の夏休みは1回だけです。夏休みは約40日間あります。この夏休みにしかできないことがたくさんあると思っています。自分で「かしこく考え」、今の自分より、ちょっとせのびして何かに挑戦してみたらどうでしょうか？校長先生は、自分のこどもが小学生のころに「自転車の旅」と題して、毎年、こどもとどこかに自転車で出かけていました。これも夏休みにしかできない挑戦でした。最後は宍道湖を一周しました。それも今ではいい思い出になっています。ぜひ、何かに挑戦をしてみてください。』という話をしました。

笹の葉に託す日本の心と七夕教育の意義

色とりどりの短冊が涼やかに揺れる七夕の季節がやってきました。こどもたちが願いを込めて笹の葉を彩る姿は、夏の訪れを感じさせる微笑ましい光景です。

七夕行事ですが、これは日本の伝統や文化を肌で感じる、極めて大切な「生きた教育」の機会でもあります。

七夕は、中国から伝わった星の神話と、日本古来の信仰やものづくりの伝統が融合して生まれた文化です。こどもたちは「織姫と彦星」の物語を通じて、他者を思いやる心や約束の大切さを学びます。また、五色の短冊に願いを書き、手先を使って飾りを作る体験には、日本の豊かな情緒と丁寧な精神が息づいています。自然の万物を表す五色に触れることで、こどもたちの心には自然への感謝や敬意が自然と育まれていきます。デジタル化や効率化が進む現代だからこそ、四季折々の行事に、手間をかけて重んじる教育が重要です。形のない文化の価値を尊び、季節の移り変わりを五感で楽しむ経験が、こどもの豊かな人間性の土台となるからです。

今年の七夕は、ご家庭でもその由来を語り合いながら、夜空を見上げられたでしょうか？

6月の中旬に、本校の敷地内に生えた竹を校務技師に言って切ってもらいました。そして、こどもたちに願い事を自由時間に書くようにお願いしました。そうしたら、たくさんのこども

たちが願い事を書いてくれました。うれしい限りです。先人から受け継いだ美しい伝統を次世代へ繋ぎ、こどもたちの豊かな心を育むために、これからも家庭や地域と手を取り合って、文化を大切にする教育を進めてまいりたいと思った出来事でした。

あいさつができる子

毎月恒例の「あいさつ運動」へのご協力、いつもありがとうございます。朝の静かな空気にこどもたちの元気な声が響くと、心がパッと明るくなるのを感じます。本校のめざすこども像の1番目に「あいさ

つができる子」を位置付けています。

古くから日本には、言葉に宿る力を尊ぶ「言霊（ことだま）」という美しい文化があります。その代表とも言える「あいさつ」は、単なるマナーではなく、相手の存在を認め、敬意や思いやりを伝える大切なコミュニケーションです。伝統を重んじる教育の中でも、あいさつは人としての基本の土台とされています。

家庭や地域で「おはよう」「ありがとう」が自然と交わされる環境こそが、こどもの豊かな人間性を育みます。あいさつができる子は、自分も周りも大切にできる子です。

今月のあいさつ運動をきっかけに、ぜひご家庭でも温かい言葉の響き合いを意識してみてください。地域全体で、こどもたちの笑顔と健やかな心を育ててまいりましょう。

7月のあいさつの日より



竹いっぱいのかざりになりました

